

みなさんの職場に教員採用試験受けている人いませんか？ 教員採用試験対策学習交流会 報告

7月8日、22日、高校教職員センターで「教員採用試験対策学習交流会」が開催されました。8日は11人、22日は16人と例年になく少ない人数に対し、4人の講師というとても贅沢な学習交流会になりました。

個人面接は、第一印象をどうつくり、教員になりたい思いを具体的に伝えるか、模擬授業では授業のどの部分をどのようなめあてを持ち、どうやって子どもにやる気を引き出し学習に結びつけるか。

集団面接は、討論ではなく面接なので、周囲の意見もしっかり聞く等々、実際の面接をした経験から講師の先生方が厳しくそして優しく指導しました。なかでも模擬授業は板書、内容、子どもへの声かけなど、素晴らしい、私たちが感心してうならされるような方が、何人もいてレベルの高さを感じました。

受験生のみなさんは、とても刺激になり、勉強になったとアンケートに感想を書いてくれました。また、その中には、雇用の不安、学習時間の不足などを訴えているものもありました。25日に一次試験の結果が発表



はばたき

道高教組札幌支部
(札幌市中央区大通西12丁目
北海道高等学校教職員センター
3階)
TEL 011-271-5875
FAX 011-271-5895

教職員の働き方の異常と

世論も注目！

現場の声を届ける

「働き方アンケート」に協力を！

今年の春、「中学教諭の約6割が過労死ラインを超過」という報道が話題となりました。これは文部科学省が4月28日に公表した教員勤務実態調査結果(速報値)に関する報道です。各紙も「教員の時間外勤務は法律などで限定されているが有名無実化しており、問題視されていた過重労働の深刻さが改めて浮き彫りになった」(共同通信)などと伝えました。毎日新聞は「長時間労働が問題視される教育現場で働く高校の教師に密着します。」として『ドキュメント 高校教師』という連載を組みました。私たち教職員の働き方の異常さが、ようやく世論の注目を浴びるようになった感があります。

松野文科相も6月22日の中教審総会で、学校現場の長時間労働解消に向け、教員の勤務時間管理に関する改善策などを検討するよう諮問しました。

現在、文科省は論点整理のために教育関係諸団体からの意見聴取をすすめています。私たち道高教組の中央組織である全教(全日本教職員組合)は、文科省からの求めに応じ、6月2日に意見表明を行いました。

その中で全教は、「この事実が『給特法』違反であること」を示しており、文科省の現在すすめている『チーム学校』や『教員の業務改善』などの施策は、抜本的な長時間労働解消策とはなっていないと



非日常の世界から見た日本
高遠菜穂子さんをお招きして

ここ数年で多忙化が加速したように思います。多忙化というより多忙感でしょうか。学力向

上の御旗のもとに、授業時数の確保の強烈な押し付けが勧められる間もなく入学式と始業式がやってくる間も、次から次へと様々な業務をこなすだけの毎日で学祭を終え、ようやく夏休みを迎えたというのが実感です。これが今の高校教育の「日常」となっているのではないのでしょうか。

例えば6年前、東日本大震災の時に我々は強烈な「非日常」体験をしました。何よりも人間

にとつて大事なことで、それは命であり、思いやりの心であることをあの時ほど思い知ったことはありません。そして、そのことこそが本当の意味で教育に値する事であることを知ったわけです。しかし残念ながら、あの時に多く叫ばれた「忘れない」という言葉は、教育界ではあっとい間に消えていき、また何事も無かったかのように「学力向上」「進学実績」が求められる学校の「日常」が復活しました。

今回、札幌支部教研にお招きする、高遠菜穂子さんは、2004年ボランティアに入ろうとしたイラクのファルージャにて武装グループに拘束された際、大変な自己責任パッシングにあわれました。しかし、その後立ち直られた高遠さんは「命に国境はない」を合言葉にイラク難民支援を継続し、イラクと日本を往復しながら命の尊さ、平和の大切さを訴え続けています。今回、イラク戦争がもたらした「非日常」を知る高遠さんのお話から、日本の置かれた現状と、教育を司る我々の「日常」はどうあるべきか、改めて考える良い機会になるのではないかと思っています。

(札幌支部執行委員 道端剛樹)

札幌支部教育研究集会は 9月9日(土)13:00~に決定

- 第1部 全体講演会(13:30~15:30)**
ところ：教育文化会館(北1西13)
- 演題
「イラクから見た日本」
～子どもたちに伝えたいこと～
講師 高遠菜穂子さん(イラク支援ボランティア)
- 第2部 分科会(16:00~18:00)**
教科別・特別支援・「しゃべり場」
予定：国・数・社・理・英・
特別支援教育・しゃべり場 他
ところ：高校センター他(大通西12)

指摘したうえで、解決のために以下の施策を求めました。

- ① 教職員定数の抜本的改善及び持ち授業時数の上限設定、
- ② 授業準備にかかる時間を勤務時間内に確保すること、
- ③ 競争主義的な教育政策からの抜本的転換、
- ④ 「給特法」の改正、
- ⑤ 教員の長時間労働の

大きな要因の一つとなっている部活動の抜本的見直し。私たちの身近でも、「今日は定時退勤日です」とか、「プレミアムフライデーです」といった実態から乖離した「働き方改革」に失笑がおこっていますが、異常な働き方を改善し、人間らしく働き、生活す

江別高校分会職場新聞から

夏休みだからと、超勤を考へる機会に 道高教組は「働き方改善アンケート」に協力をお願いします

当たり前のように仕事をこらさず、超勤になる...
真の教育をこらさず、超勤が増える...

目今の生徒と真摯に向きあう、真つ当日の教育活動や業務に取り組みとすればするほど、超勤が増えつしまう。学校現場では、半世紀近くにわたって、それが常態化しています。学校が「最もブラックな職場」のひとつであることは、今や世

経済効率を優先する財務省の巨額で分厚い壁を突き崩し、教育予算増額に政策転換させるためには、政治の変革が不可欠であることは言うまでもありません。

まずは、自分の働き方を見直すことが

んが、仮に教員の定数増が実現したとしても、半世紀近くにわたって学校現場に根付いてしまった「超勤やむなし」という文化を変えなければ、同じことの繰り返しになる危険性もあります。

超勤の縮減・解消には、①法律・制度の抜本的な改正を求め運動だけではなく、②職場全体の意識変革と合意づくり、③個人個人の働き方の見直しが自覚的に追究される必要があるといえます。

道高教組は、今回の「働き方改善アンケート」を、全国全道規模の①の運動と、各職場における②③のとらえかきをする、ひとつのきっかけにしたいと考えています。



今年も教育全国署名が始まりながら、大学までお金の心配をしない進学できる国も多C諸国の中でも最低レベルです。子どもたちの教育は、国の教育条件整備が進まない中で、保護者の努力と教員の長時間過密労働によって、何とか支えられています。しかし、本来教育は国が保障するものであり、憲法で規定された大切な権利です。

教育予算増額・少人数学級・教職員定数増等実現のために！ 映画校庭に東風吹いて「会場」で385筆 大通街頭宣伝行動で71筆集まる！



映画上映会ロビーの署名コーナー

今年も教育全国署名が始まりながら、大学までお金の心配をしない進学できる国も多C諸国の中でも最低レベルです。子どもたちの教育は、国の教育条件整備が進まない中で、保護者の努力と教員の長時間過密労働によって、何とか支えられています。しかし、本来教育は国が保障するものであり、憲法で規定された大切な権利です。

また、道に対しては、機械的な学校統廃合を行わないことを求めています。現在、道は、高校統廃合の基準となつた「新たな高校教育に関する指針」の見直しをしています。この約10年間、道は72校もの高校を廃校にしました。高校を存続させることは、教育の機会均等を保障する側面からも重要ですが、同時に、

毎年6月と12月の「夏季・冬季ポータル」期に際して、「闘争・平和カンパ」をお願いしていますが、多くの方々からご協力頂きました。この紙面にてお

闘争・平和カンパのお願い

地域の文化の拠点であり、地域の活力の源でもあります。高教組は道内179すべての自治体を訪問し、首長や教育長と懇談をしてきましたが、地域にとって高校が大切な存在であるのか、身をもって知ることができました。こうした一つ一つの声が、道教委の方針を揺さぶり、新たな指針の見直しに反映されようとしています。そんな時だからこそ、今年の教育署名は大きな意義をもつこととなります。今年、私たちの長年の願いであった給付制奨学金の廃止が実現しました。一方で、日本という国がいかに教育にお金をかけない国であるのか、報道の広がりも含めて少しずつ浸透してきているようにも思えます。子ども教職員も輝く学校にするためには、教育予算の増額が必要です。皆さんの一筆が、国や道を動かす力になります。力を合わせてがんばりましょう。



全教総合共済にキャンペーン中に5人加入するとメロンが加入者全員にあたるという大盤振舞いのメロンキャンペーンが終了しました。札幌支部（札幌、石狩、江別、当別、北広島、恵庭、千歳）では、類似工業、有朋、手稲養護の3校が達成しました。何のこと？という方。全教総合共済は全教・全日本教職員組合（日教組・日本教職員組合）が、責任を持って運営する全国の教

全教共済メロンキャンペーン メロンももらいました！

職員による教職員のための自主共済です。そのお手軽版が総合共済で、月々600円の掛金が退職する時に全て還ってきます。加入すると、結婚記念日（15年、25年、35年いずれか）で、クリスタル給付（結婚してなくても加入10年で、結婚で、出産でお祝い、死亡、入院（連続30日以上）、火災、自然災害で見舞いが出るなど、入らない理由がないというものです。まだのひとは、是非、お近くの高校組の方に声をかけてください。

ところで、私の職場では、60人弱在籍のうち今回の加入5人を含め37人が加入しています。メロン6個入りの段ボールが6箱と1個入りが1つ届き、かなりインパクトがありました。ちょうど職員会議のあとに配布をしたところ未加入の方が「なんだ、なんだ」という感じでした。ちなみに我が家的には、いつも喜んでくれた娘が今春家を出たので、今回は少し甘酸っぱいメロンになりました。（手稲養護 桑原岳夫）

まずは炉辺談話でも

土岐 剛史
(有朋高校分会)

度。この言葉の本来の意味はさておき、この単語は今や疑惑と不正の象徴として、巷の流行語となっている。明示的でないことに対して、相手の意図を推し量って先回りして行動する。そういうばこんなことがあった。とある教師が生徒の頭の上に拳をつくり、「飛び跳ねてみる」と言う。その高圧的な言われ方に、飛び跳ねる生徒は、当然頭上にある拳に頭をぶつけた。形だけいえば、生徒が「自ら自分の意思で」ぶつかってきた形。実に狡猾な「体罰」ではなかったか。

運動 (ムーブメント)は至

う政治的な戦略の中で自衛隊の現場の自衛隊員の身の危険を報告する真摯な記録を隠蔽する政治、など。また、核兵器禁止条約の締結という場面に於いても、「日本国民の受けた被害や苦痛よりも自身の政治的立場を優先させる姿」もまた顕著。国連において核兵器禁止条約の締結に努力した国際社会の多数派の国々に対してなんとも恥ずかしい。アメリカへの付度ここに極まれり？

「アベ政治を許さない」という言葉のもつ意味は安保法制審議では立憲主義破壊の暴挙に対してであった。近頃、すいぶんとオポジションがついてきた。「自らの腹心の閣僚で身を固め、与党内での異論すら押し込める強権的な政治」、「モリカケに端的に表れる自らと政治的立場を同じにした組織への行政的配慮の政治」、「駆けつけ警護付与とい

一方、若者の貧困問題、ブラック企業・過労死の問題、不十分なながらも給付型奨学金の導入など、国会内の政党間の力関係を超えて世論が政治を動かしている。強権的な政治運営の一方で、草の根からの粘り強い「声」と広がり地地道道な前進を生んでいる。水前寺清子の365歩のマーチを思い出さずにはいられない（何歩か下がるけど）。私たちの要求の実現は即時的に

はばたき平和行動に参加しませんか？

8月 5日(土) 矢臼別平和盆踊り 別海町
6日(日) 原爆の火を囲むつどい 午前8:00 琴似日登寺境内
ヒロシマデー 12:15~ 大通西3
原爆死没者北海道追悼会 ノースシティ 13:00~
7日(月)「松平草さんのトランペット」13:00~大通西3
6日~9日 戦争と平和を考える パネル展 地下街オーロラタウン
9日(水) ナガサキデー 12:15~ 大通西3
15日(火) 反戦街頭宣伝行動 11:00~11:30 池内前
走れ! 平和号(市電) 12:30~ すずきの発車

*その他多くの企画あり。
一部のみ紹介しました。

は、国会や地方議会において高教組の要求をくみ上げてくれる議員の「数」で決まるのかも知れない。けれども、例えば、昨年度の教育署名においては、道議会全会派が紹介議員になったこと、教育キャラバンでは自治体首長が私たちの取り組みに賛同する動きの広がり「運動」の力。大きな政治的な課題の渦の中だからこそ、職場という足場が大事だと最近思う。職場では6月、久しぶりに開いた分会会議で話し合っ、年度始めの校長と分会の顔合わせを数年ぶりに実施した。その中では率直な意見交換も行い、私たちは組合で、校長は校長会で、それぞれできることもあってしょうという話もさせてもらった。職場での活動は地道。解決しないことだらけが多い。けれども、生命線。うまく解決したときの喜びは「ひとしお」だ。高教組のもつさまざまな要求は、自信を持って語れるものばかり。けれども、誰もが全面的にそれに一致できるかといえ、職場内にはいろいろな考えの人がいて、いろいろな立場の人もいる。ある部分においては賛同できても、ある部分においては賛同できない人もいます。それは、とても健全なことだ、いろいろな考えの人がいるからこそ職場は健全なのだ、

と思う。考えをぶつけ合っって自由な議論をして、違うからこそ「一致する要求」がうまれる。一本の矢 安保法制以降の一致点で共闘するという野党共闘。昨年参院選挙での北海道・東北の小選挙区1人区での野党共闘（とおほしき）議員の誕生は東北生まれの私には衝撃だった。ゆえに、自分の職場での組合活動もまた、「組合員ではまだない」かつて組合員だった「人と力を合わせる」ことが大事なのだと思に刻む今日この頃、なのである。アベノミクスは3本の矢。私たちは今にも折れそうな矢が束になって強固な一本の矢になれる。その一歩は朝の連続テレビ小説の炉辺談話から始まるのかもしれない。